

○事業所名	児童発達支援センターまな星		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	337	(回答者数) 316
○従業者評価実施期間	2025年 1月 7日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育を通して子どもに対する見立て・見極めを行い、それをグループで共有して対応しているため、それぞれの課題となること、練習していきたいポイントを意識した関わりが毎回できる。	療育前にグループスタッフ全員で課題の選定をし、流れについて確認すると同時に想定される子どもの行動について共有している。 療育後にカンファレンスを行い、活動時の子どもの様子や反応、行動、課題について共有している。	個々の子どもに対する理解を深めるため、カンファレンスにおける見立てだけでなく、診察や発達検査の様子、結果についてクリニックと共有している。
2	各学年ごとに5領域を踏まえた指導計画を作成しており、グループや個々の様子に合わせてねらいや活動内容を検討しながら実施している。机上課題に季節感を盛り込んだり、身体を動かす課題を取り入れたりと、活動が単調にならないよう工夫をしている。	グループの状況に応じて課題の提示の方法や指示の仕方を変えている。子どもたちが少しがんばって取り組んだり、苦手だけどチャレンジしたらできたという経験が積めたりするところをねらって実施している。	苦手な場面や課題における子どもの行動を肯定的に捉え、参加の仕方の提案をしたり取り組むためのきっかけを示したりして、スタッフがいろいろな方法を試行する中で気持ちを変える練習を積んでいけるようにしている。
3	毎回、活動終了後に保護者の方とスタッフとで振り返りの時間を持っている。その日の子どもの様子や行動を共有しながらスタッフが解説し、特性の理解を図っている。また、保護者の方の感想や、困り感、気になっていることをお聞きする時間にもなっている。	具体的な場面や子どもの行動を分かりやすく説明することを心がけている。課題が「できた・できない」ではなく、その課題にどう取り組んでいかに目を向けるということをスタッフ間で共通認識としており、保護者の方にもこの点を意識してお伝えしている。	着目するポイントを解説しながらお伝えすることで、特性理解に繋げられるよう努めている。保護者の方の様子に合わせて個別にお話を聞く時間も取るようにしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催、保護者同士の交流の機会を設けられていない。家族支援に関して、療育後の振り返りや個別懇談等、従来からの取り組みが中心となっている。	利用されている方の居住範囲が広く、療育時間外での交流は難しいと思われる。 保護者同士の交流を希望しないというご意見がある。	当事業所で実行可能なことで、保護者の方の希望に叶う方法を検討したい。2の情報発信についても課題点であるため、順次、段階的に進めていきたいと考える。
2	情報発信。HPの活用や、療育以外で事業所が行っていること(例えば、避難訓練や災害発生時の備え等)についての説明が十分に行っていない。	利用されている方への情報発信や説明は、年度始まりのオリエンテーションや療育開始時に口頭で丁寧にしている。その時のみで十分な理解や周知は難しかったと思われる。	HP等での発信や療育フロアー掲示板の活用方法を検討し、具体的な内容・時期を決めて実行していく。
3	曜日によって療育回数に違いがある点。	半年毎の療育カレンダーを作成しているが、祝祭日・振替休日の関係で月曜日の回数が他の曜日に比べて例年少ない。振替の案内はしているものの、実際の利用や実施は難しい状況がある。	療育の機会を保障できるよう、振替可能であることの案内と周知を積極的に行う。